

社会福祉の理論と実践をつなぐ

受講料

無料

第 60 回 社会福祉セミナー

社会福祉施設の 今日的使命を問う

期 日 | 2024 年 7 月 6 日(土)、7 日(日)

定 員 | 600 名(定員になり次第締切)

受 講 料 | 無料

申込締切 | 2024 年 6 月 20 日(木)

開催方法 | Zoom ウェビナーを使用したオンライン開催

申込方法 | 鉄道弘済会ホームページ
<https://www.kousaikai.or.jp/news/detail/>
もしくは右の QR コードよりお申し込みください。

▼ 受講申込 ▼



ねらい

かつて日本の社会福祉における支援は、社会福祉施設での集団処遇(すなわち施設福祉)を基本としていた。しかし1970年代に入り、ノーマライゼーションやコミュニティアケアの理念の拡がりとともに、在宅福祉が新たな支援スタイルとして認識されるようになった。以後、「施設から地域へ」が福祉政策の基調となり、現在では「地域生活支援」を志向した改革が社会福祉全体で進められている。社会福祉施設においても、ユニットケアや小舎制の導入、小規模多機能型居宅介護の制度化など、施設での生活を、できるだけ家庭や地域での生活に近づけるための取り組みが行われてきた。

その一方で、施設福祉のニーズは依然として高い状況にある。特に近年では、家族や地域社会が担ってきたケア機能が縮小する中、入所型社会福祉施設は、家族介護や在宅介護の「限界」を支える「最後の砦」としての役割が期待されるようになってきている。

そこで本セミナーでは、改めて入所型社会福祉施設の役割について考える。施設福祉の歴史を振り返るとともに、社会福祉施設が現在直面している働き手不足の問題に触れ、その対策としてどのような取り組みが必要とされているのかなど、今後の方向性について検討する。また、虐待防止や利用者の意思決定支援、地域における公益的活動といった社会的要請への対応等についても考えることを通して、これからの社会福祉施設のあり方を展望したい。

プログラム | 7月6日(土)

(敬称略)

開会挨拶

10:30~

基調講演

開会挨拶終了後~12:30

社会福祉施設の今日的使命を問う

社会福祉法人横須賀基督教社会館理事長 岸川 洋治

休憩

12:30~13:30

講座①

13:30~16:00

今、社会福祉施設に問われているものーその歴史的な歩みからー

社会福祉施設は、社会の変化や政策動向の中で多くの課題に直面し、それらに対応することで、そのあり方を変化させ続けてきた。利用者や地域社会から求められるニーズにどう応えるか、地域社会にどのように貢献すべきか、利用者本位の支援とはどうあるべきかなど、福祉施設が果たすべき役割は常に問われ続けてきたといってよい。

本講座では、わが国の施設福祉の政策と理念、その社会的使命をめぐる歴史的変遷について振り返る。そして、社会福祉の各分野における最新の知見を基に、今後の施設福祉の方向性について考える機会としたい。

社会福祉法人至誠学舎立川児童事業本部事務局長 高橋誠一郎

武庫川女子大学心理・社会福祉学部教授 堀 善昭

新潟県立大学人間社会学部准教授 西村 愛

コーディネーター：同志社女子大学現代社会学部教授 倉持 史朗

施設福祉の最前線－新たな価値の発信－

今、全国各地の社会福祉施設で新たな施設福祉のあり方を模索し、施設福祉の価値を地域や社会に発信する試みが広がっている。

本講座では、そのような実践のフロンランナーからの報告を基に、福祉施設が現在直面している課題を現場の目線でとらえ、これからの施設福祉に求められることについて考えてみたい。

社会福祉法人ゆうかり理事長 水流 源彦

社会福祉法人ライフの学校理事長 田中 伸弥

社会福祉法人福祉楽団理事長 飯田 大輔

コーディネーター：東洋英和女学院大学名誉教授 石渡 和実

社会福祉施設における権利擁護と意思決定支援

入所型社会福祉施設は、さまざまな理由により自らの権利を主張しにくい人々を受け入れ、支援している。一方で、福祉施設の隔離性や閉鎖性を背景に虐待や権利侵害は繰り返し発生しており、それをいかに解消すべきかが常に問われている。さらに近年では、意思決定支援やアドボカシー機能の強化など、入所者の権利をめぐる新たな論点も数多く浮上している。

本講座では、福祉施設における権利擁護の現状や課題をはじめ、各実践現場で行われている当事者の参画や意思決定を支える取り組みの報告から、これからの施設福祉における権利擁護と意思決定支援のあり方について検討したい。

一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長 又村あおい

社会福祉法人晋栄福祉会兵庫エリア総合施設長・中山ちどり施設長 石村 陽一

常葉大学保育学部准教授 山屋 春恵

コーディネーター：淑徳大学総合福祉学部教授 山下 幸子

受講いただくにあたって

- ・ 受講に必要な機材(PC、スマートフォン、タブレットなど)とインターネット環境をご用意ください。
 - ※ 視聴に伴う通信料などは受講者負担になります。また、通信環境によっては動画の乱れが生じる場合があります。
 - ※ インターネット接続に関する不具合、お問い合わせなどには対応できかねます。あらかじめご了承ください。
- ・ 本法人の許可なく、資料の一部およびすべてを複写、転載、または配布、印刷などし、第三者の利益に供することを禁止いたします。また、配信画面の録画、録音および撮影などは固くお断りいたします。
- ・ 取材や各媒体への掲載をご希望の方は、右記 QR コードより「取材申請画面」にて事前にお知らせください。
- ・ 本セミナー当日に X(旧 Twitter)で「#社会福祉セミナー」をつけ、感想などご投稿いただけますと幸いです。
- ・ 受講申込の際にお預かりする個人情報、本法人のセミナー事業などのご案内にのみ使用いたします。

▼取材申込▼



講師紹介

【基調講演】

岸川 洋治（きしかわ ようじ）

（社会福祉法人横須賀基督教社会館理事長）
1969年、社会福祉法人横須賀基督教社会館にコミュニティワーカーとして採用され、地域活動に従事。1996年、法人が新たに設置した認知症デイサービスセンター、障害者デイサービスセンター、就労支援B型事業所等の統括責任者を経て、1998年西南学院大学教授、2004年学長に就任。その後2007年、社会福祉法人横須賀基督教社会館館長に就任、2021年より理事長。専門分野は地域福祉。著書に『近隣活動とコミュニティセンター横須賀基督教社会館と地域住民のあゆみ』（簡井書房、2004年）、『福祉に生きる君へー私たちは何を伝えてきたかー』（共著、燦葉出版社、2021年）等。

【講座①】

倉持 史朗（くらもち ふみとき）

（同志社女子大学現代社会学部教授）
京都府立大学卒、同志社大学大学院修了。同志社大学専任講師、天理大学准教授を経て現職。博士（社会福祉学）。専門は社会福祉史、思想。教育現場では社会福祉士、精神保健福祉士、保育士等専門職養成に関わりつつ、キリスト教や天理教福祉施設の歴史研究等にも取り組んでいる。著書に『監獄のなかの子どもたちー児童福祉史としての特別幼年監、感化教育、そして「携帯乳児」ー』（六花出版、2016年）、『博愛社の史的研究ー大阪児童福祉の先駆ー』（共編著、六花出版、2023年）等。

高橋 誠一郎（たかはし せいいちろう）

（社会福祉法人至誠学舎立川児童事業本部事務局長）
児童養護施設を経営する両親のもと子どもたちと共に育ち、児童指導員として就職。米国大学院でMSW修得。2002年NPO法人エンジェルサポートセンター創設、自立支援プログラム実施。2009年至誠大地の家を開設し親子関係の再構築に焦点を当て、施設長として尽力。2019年より現職。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、実践女子大学非常勤講師、公益財団法人鉄道弘済会『社会福祉研究』編集委員。

堀 善昭（ほり よしあき）

（武庫川女子大学心理・社会福祉学部教授）
金融機関、社会福祉法人京都福祉サービス協会高齢者福祉施設紫野副施設長、同法人施設本部副本部長を経て、2011年4月より武庫川女子大学文学部教員、2023年4月より現職。社会福祉学、政策学が専門。成年後見制度や高齢者問題を中心に、研究および社会的活動を行う。

西村 愛（にしむら あい）

（新潟県立大学人間生活学部准教授）
東北文化学園大学、青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科講師を経て、2019年より現職。専門領域は、障害者福祉、家族支援。修士（社会福祉学）。社会福祉士。研究テーマは、知的障害者の親亡きあと問題の解決に向けた家族支援。実践では、特別支援学校を卒業した、知的障がいのある人を対象としたオープンカレッジを開催してきた。著書に『社会は障害のある人たちに何を期待しているかー生涯学習実践から知的能力をめぐる問題を考えるー』（あいり出版、2014年）等。

【講座②】

石渡 和実（いしわた かずみ）

（東洋英和女学院大学名誉教授）
1981年3月、筑波大学大学院博士課程修了。1981年4月より10年間、埼玉県や横浜市のリハビリテーションセンターで、障害者の就労や福祉サービスの相談に関わる。その後、東洋英和女学院大学等で「障害者福祉論」「人権論」を担当。1997年に「湘南ふくしネットワーク」のオンブズマンとなり、2016年7月に神奈川県相模原市で起きた津久井やまゆり園事件の検証委員長を務める等、さまざまな権利擁護活動に関わる。

水流 源彦（つる もとひこ）

（社会福祉法人ゆうかり理事長）
1970年鹿児島市生まれ。1993年社会福祉法人しがらき会信楽青年寮入職。1997年社会福祉法人落穂会ゆうかり学園入職。知的障害者施設の入所定員110名を40名に縮減し、グループホームへ移行。2007年、インクルーシブ保育実現のためゆうかり保育園を開設。2015年社会福祉法人ゆうかり理事長就任。NPO法人全国地域生活支援ネットワーク理事長、鹿児島県障害者自立支援協議会会長。第24回糸賀一雄記念賞受賞。著書に『僕らはいつも旅の途中ー共生社会の未来をひらく5人の実践者たちー』（共著、中央法規出版、2022年）。

田中 伸弥（たなか のぶや）

（社会福祉法人ライフの学校理事長）
1981年秋田県生まれ。大学卒業後、2つの法人で介護／支援相談員として働いたのち、2011年社会福祉法人ウエル千寿会（ライフの学校の前身）で特別養護老人ホーム施設長に就任。2013年同法人常務理事就任。2019年6月より理事長となり、2020年法人名称を社会福祉法人ライフの学校に変更。

飯田 大輔（いいだ だいすけ）

（社会福祉法人福祉楽団理事長）
1978年千葉県生まれ。東京農業大学農学部卒業。日本社会事業学校（現・日本社会事業大学）研究科修了。千葉大学看護学部中途退学。千葉大学大学院人文社会科学部研究科博士前期課程修了。修士（学術）。2001年、社会福祉法人福祉楽団を設立。特別養護老人ホーム等の相談員や施設長等を経て、現在、理事長。2012年、株式会社恋する豚研究所設立、現在、代表取締役。千葉大学非常勤講師、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士。

【講座③】

山下 幸子（やました さちこ）

（淑徳大学総合福祉学部教授）
大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。専門は社会福祉学、障害学。障害者の地域生活支援を中心にテーマに研究を行っている。主な論文に、「重症心身障害者の地域での生活と意思決定支援ー生活支援と意思決定支援の構造に着目してー」（『社会福祉学』第60巻第4号、日本社会福祉学会、2020年）。

又村 あおい（またむら あおい）

（一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長）
公益社団法人日本発達障害連盟常務理事（『発達障害白書』編集長）でもあり、内閣府の障害者差別解消法に関する各種検討会委員、厚生労働省障害児通所支援の在り方に関する検討会委員等も歴任する。知的・発達障害分野における法制度や支援施策が主な専門分野。

石村 陽一（いしむら よういち）

（社会福祉法人晋栄福祉会兵庫エリア総合施設長／中山ちどり施設長）
大学卒業後、医療ソーシャルワーカーとして病院に勤務。その後、特別養護老人ホームにおいて、介護職、施設リスクマネージャー等を担当。介護保険制度施行後は、訪問介護事業所等の立ち上げ、介護支援専門員、入所の生活相談や地域包括支援センターと訪問介護の管理等を行い現在に至る。大阪市立大学大学院経営学研究科修了（MBA）。

山屋 春恵（やまや はるえ）

（常葉大学保育学部准教授）
小学校教諭、女性相談員、秋草学園短期大学専任講師、文部科学省教科書調査官（福祉科担当）等を経て、2018年度より現職。専門は子ども家庭福祉、社会的養護、子どもの権利擁護。2020年度より、神奈川県子どもの意見表明支援事業子どもの権利擁護専門員として児童養護施設等を訪問し、子どもたちの声を聴いている。神奈川県社会的養育推進計画改定権利擁護ワーキンググループ座長を務める。社会福祉士。

問い合わせ先

公益財団法人鉄道弘済会「社会福祉セミナー」係
TEL 03-6261-2790 FAX 03-3815-8978
Mail fukushi-seminar@kousaikai.or.jp